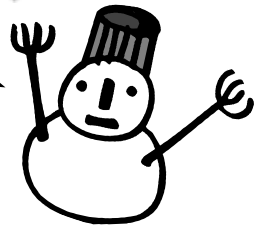


# 第1回学習会開催

2月13日に雪あかり館にて開催した学習会に、看護師含む49人(うち消防協3人)が参加しました。今回は、講師として執行部西垣充孝書記長、上川地本長能朋広書記長をお招きし、『賃金合理化の現状報告』と『春闘と賃金について』について講演をしていただきました。その後、分散会、団結メモ帳作りを行いました。



講演

## 共に闘い続ければ、賃金は守れる

西垣書記長からは賃金合理化の現状について、まず「年数による5級到達の廃止」「下の賃金ラインへの統一」など当局の都合で行われようとしている賃金削減について、図式等を用いた説明がありました。「当局と闘わなければ賃金は下がる一方。私たちの闘いの結果は地域の労働者にも波及している。闘い続けることで私たちだけでなく、まわりの労働者、私たちの子孫など将来の労働者の賃金を守ることができる」というお話で講演は終了しました。



▲執行部 西垣書記長

講演

## こだわろう「賃金」

上川地本長能書記長からは、まず、労働と賃金の関わりについて「労働と労働力は別物。働くことで賃金を得ているのではなく、働くための肉体的、生理的な力から賃金を得ている」とのお話がありました。賃金合理化をとりまく制度については、「ラスパイレス指数は、地方公務員の給与水準を国家公務員の俸給をもとに算出したものである。その基準に諸手当は含まれないことなどから、ラスパイレス指数を国家公務員と地方公務員の賃金比較の対象とするのはおかしい」「人事院勧告はあくまで国家公務員に対して行われるもの。地方公務員の労使交渉の“ものさし”にはなり得ない」などのお話がありました。

▲上川地本 長能書記長

また、「職場での問題が起きた時、まずは、なぜその問題が起きたのか職場内で話し合うことが必要。話し合うことで解決の糸口や原因となるものの本質がわかる」というように、実際に身近で私たち自身に起きうる問題について、情報の共有や互いに協力し合うことの大切さを考えるきっかけとなるお話もありました。

分散会

## 生活はできても、貯金ができない 将来に多くの不安の声

分散会では、日頃の生活状況を話し合いました。「思ったより貯金ができずひとり暮らしができない」「冠婚葬祭等での臨時の出費があると苦しい」「貯金をしても結局切り崩すはめになってしまう」「将来のために貯金をしたいができない」といった声が出されました。多くの部員が毎月の生活でいっぱいいっぱい、一時金も生活費や臨時出費の補てんとなっている現状です。



分散会、団結メモ帳作成の様子。  
お疲れさまでした！